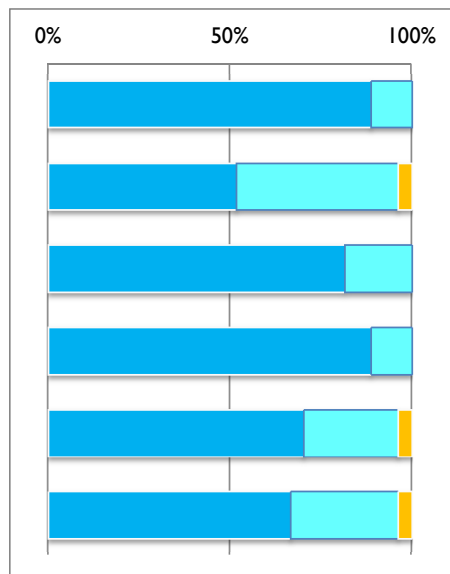


令和元年度甲西中学校学校評価（7月実施） 教職員自己評価の集計結果

4：そう思う 3：ややそう思う 2：ややそう思わない 1：そう思わない

1 学校経営・組織・安全管理

評価項目	4	3	2	1	評 価	
					今回	前年同
1 学校教育目標の達成に向け、学校経営方針に基づき、学校運営がなされている。	24	3	0	0	3.9	3.9
2 教職員間の相互理解が十分になされ、信頼関係に基づいて教育活動が行われている。	14	12	1	0	3.5	3.5
3 教育活動が組織的に計画され、協力体制のもとで、実施されている。	22	5	0	0	3.8	3.8
4 校舎内外の施設設備について定期的に点検し、結果を的確に処理(整備・保全)している。	24	3	0	0	3.9	3.8
5 事故、事件、災害に対して迅速かつ適切な対処ができるようマニュアルを整備し、リスクマネジメント、クライシスマネジメントを行っている。	19	7	1	0	3.7	3.7
6 個人情報保護の観点から、生徒の個人情報に関する管理システムが確立されている。	18	8	1	0	3.6	3.6

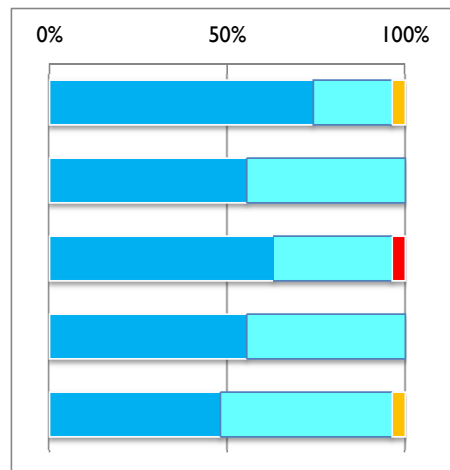


1 学校経営・組織・安全管理についての自由記述

- ・職員間でのコミュニケーションも豊かであり、分業しながら連携して運営ができています。
- ・在校時に大規模な地震が起きたとき、適切な対応ができるか不安である。（生徒の救護 地域住民が避難するまでの学校がとるべき行動等、校内でシュミレーションできる職員研修が必要と感じる）
- ・学年内部や学年間での情報共有をもっと充実させたいです。
- ・半日勤務の職員や他学年の先生方との情報交換、共有する時間の確保に腐心している。（特別支援担当として）

2 教育課程・教科指導

評価項目	4	3	2	1	評 価	
					今回	前年同
7 学習指導要領に基づき、キャリア教育の視点も踏まえた教育課程が編成され、それに基づいた教育活動が行われている。	20	6	1	0	3.7	3.6
8 生徒の学習意欲と学力の向上のため、校内研究の柱である少人数による学び合いを取り入れた授業改善に取り組んでいる。	15	12	0	0	3.6	3.8
9 評価基準を明確にし、生徒の学習状況を分かりやすく、適切に評価している。	17	9	0	1	3.6	3.5
10 3年間を見通す中で計画的に総合的な学習が実施され、成果があがっている。	15	12	0	0	3.6	3.5
11 道徳の授業の充実に努めるとともに、他者を思いやる心や規範意識を育てる教育活動を、日常的に実施している。	13	13	1	0	3.4	3.3

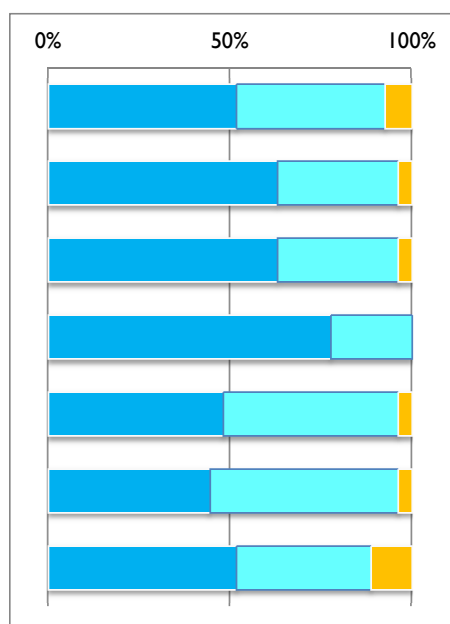


2 教育課程・教科指導についての自由記述

- ・個々の情報（個別の支援計画等）が関係する先生方に周知されていないと感じる。情報を共有するなかで、先生方と話し合いができれば良いと思う。話し合いの時間を設定することが課題。
- ・新学習指導要領への移行を意識した授業改善をもっとすべきだと感じている。
- ・通信表の観点別評価について、保護者への説明の必要性を感じる。

3 生徒指導・教育相談・特別支援

評価項目	4	3	2	1	評価	
					今回	前年同
1 2 生徒の問題行動に対し、報告・連絡・相談の体制が確立され、共通理解の上で組織的に対応している。	14	11	2	0	3.4	3.6
1 3 いじめの早期発見に努めるとともに、早期解決に向けて組織的に取り組んでいる。	17	9	1	0	3.6	3.7
1 4 親との対応や関係諸機関との連携が、スムーズに行われている。(SC, SSW, SS等)	17	9	1	0	3.6	3.6
1 5 養護教諭やスクールカウンセラーなどと連携を図り、教育相談等に生かしている。	21	6	0	0	3.8	3.7
1 6 「子弟同行」が行われ、教師が生徒の模範や理解者・支援者となりえている。	13	13	1	0	3.4	3.4
1 7 不登校傾向のある生徒の支援に配慮し、必要に応じて関係機関と連携を図りながら対応している。	12	14	1	0	3.4	3.6
1 8 特別支援教育について共通理解が図られ、保護者や生徒の抱える諸問題に真摯に対応し、個別の支援計画に基づいて実施されている。	14	10	3	0	3.4	3.5



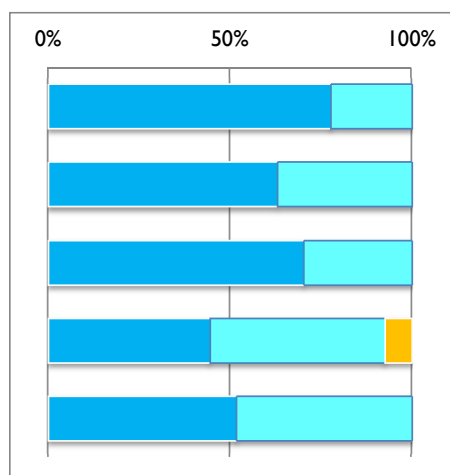
3 生徒指導・教育相談・特別支援についての自由記述

- ・支援計画の作成と取扱いをもっと工夫が必要と感じる。
- ・早期発見、解決に向けて学年で密に情報交換しながら対応することができている。
- ・不登校生徒が多く、更なる対応も検討しなければならない。
- ・生徒指導部会で毎週情報を共有している。今後、不登校や連続欠席している生徒に対して個々に支援目標、計画、評価をPDCAサイクルで取り組む。不登校傾向の生徒に対して生徒指導部会で情報発信・整理し役割分担を行う中でチームとして行う。

4 特別活動

己

評価項目	4	3	2	1	評価	
					今回	前年同
1 9 学校行事や生徒会活動(学年生徒会)の取組が、生徒の成長(自主性や協調性)や学校生活の充実につながっている。	21	6	0	0	3.8	3.8
2 0 部活動において、生徒が達成感を得られるよう、活性化するための工夫や配慮がなされている。	17	10	0	0	3.6	3.6
2 1 合唱を推進する活動が計画的、効果的に行われ、生徒の心の教育や集団づくりに役立っている。	19	8	0	0	3.7	3.5
2 2 朝のあいさつ運動などを通して、あいさつができる生徒の育成に努めている。	12	13	2	0	3.4	3.4
2 3 今日的な健康課題(薬物乱用・エイズ・熱中症等)について、専門機関との連携を図り、授業や講演を通して指導がなされている。	14	13	0	0	3.5	3.4

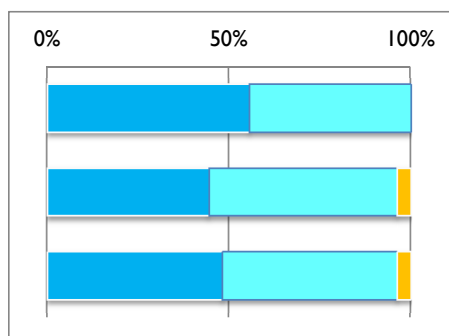


4 特別活動についての自由記述

- ・合唱を披露する機会が多く、合唱を通じて「創り上げる喜び」を気付かせることができるのでよい。
- ・委員会活動を活性化させたい。意識の低い生徒もあり、担任、生徒会顧問共に生徒の成長を支えたい。
- ・自分から挨拶する生徒もいれば先生から挨拶をしてもしない生徒もいる。知恵を出し合い、あいさつ運動をすすめていきたい。

5 保護者・地域との連携

学校評価項目	4	3	2	1	評 価	
					今回	前年同
24 関係諸機関との連携により、外部との信頼の輪が広がり、教育活動や生徒指導に役立っている	15	12	0	0	3.6	3.4
25 生徒の学習や生活の様子を保護者に知らせ、保護者との相互理解を図り、連携している。	12	14	1	0	3.4	3.6
26 授業参観や学校開放日を適切に設けたり、学校・学年・学級だよりやホームページを活用したりして、学校内の情報を保護者や地域に適切に伝えている。	13	13	1	0	3.4	3.6



5 保護者・地域との連携についての自由記述

- ・学級通信を出すなどの工夫があり、よいと思う。
- ・ホームページの活用において、日々の生徒の様子を伝えていくことはできるのか考えていきたい。

6 26項目以外の自由記述

- ・校長、教頭ともにいつも私たち職員に温かく笑顔ある職場づくりをしていただきありがとうございます。
- ・生徒の状況や様子を普段から共有できる雰囲気をつくりたい。（資料や会議の中だけでなく、職員室や休み時間などで）
- ・クラスのことを担任だけでまわすのは厳しいときもあるので、フリーの先生方に積極的に関わっていただけるとありがたいです。
- ・三学年の「チーム三学年」の取り組みはとても有意義な取り組みだと思います。今後も続けてほしいです。
- ・若い先生方が増えていく中、一つ一つの授業、行事、部活動などの活動の意義を理解しながら、生徒の何を育てたいか、どんな学校を作っていきたいのかを共有しながら頑張りたい。

はじめに

今年度の職員自己評価の傾向は、昨年の同時期の値を9項目で上回り、10項目で下回った。昨年より評価が下回った項目が多くなったのは、数年前の生徒指導に大きな労力を割かれた時期を脱し安定しているものの、教職員が更なる向上に向けての努力を忘れず改善しようとする意識が高くなってきているからだ考える。

今後は、改革の意識を忘れずに、更なる特色ある学校運営を心掛け、教師側だけの満足感や安心感にとどまることがないように、生徒、保護者アンケートと比較し評価の低い項目の改善に努めていきたい。

1 学校経営・組織・安全管理について

- ・ほとんどの教員がどの項目においても肯定的な評価をしている。特に、「4の校舎内外の設備の整備・保全」は昨年度に比べ向上している。（体育館床整備 玄関マットの修理）
- ・「1学校運営」、「3協力体制」の項目は評価平均は昨年度と変わらないものの、高い評価値を示しており、組織的な学校運営を今後も維持する努力を続けていく必要がある。
- ・「2 教職員の相互理解、信頼関係」については依然として生徒指導をはじめとする業務量において、負担を感じている職員が多いことを示しており、チームで取り組みながら更なる業務改善と協力体制構築に取り組む必要がある。
- ・「5リスクマネジメント、クライシスマネジメント」に関しては、養護教諭が示した適切な対応への研修や訓練を充実させ、安心・安全な学校づくりに更に踏み込んで取り組む必要がある。
- ・校務支援システムの活用による情報交換だけでなく、教職員が普段の会話から生徒の課題を話題にする雰囲気醸成に取り組む必要がある。

2 教育課程・教科指導について

- ・市の学びの質を高める授業づくり推進事業の指定研究が終了し「8 校内研究の柱である少人数による学び合いを取り入れた授業改善の取組」について評価が下降した。主体的・対話的で深い学びの実践は引き続き校内で取り組み、お互いの授業や小学校の授業を観察するなど前進している部分もある。しかし、講義形式の授業も依然多く、新学習指導要領の求める資質能力の育成のための授業改善を組織的に継続し、お互いに学習したり実践を繰り返していく必要がある。
- ・「11道徳教育の充実」については、道徳に関する研究会、お互いの授業を見合う、他クラスを活用したプレ授業の取り組みにより一昨年度より更に改善している。しかし、数値的にはまだ低く課題がある。本年度から教科書を使っての道徳の授業が始まったが、教科書の取り扱い方法に不慣れな面も多く組織的に研究及び学習を深めていく必要がある。

- ・「7キャリア教育」「10総合的な学習」においては甲西中の3年間を見通した系統的な取り組み(職業調べ及び体験校外学習・修学旅行平和学習)の成果を職員が認識し、更に3年間同様の実践を計画的に実施していく方針である。
- ・通信表の評価内容がどのような取り組み内容や評価基準から判断されたものであるかを、「よりわかりやすく説明する資料」の提供を要望する意見がある。存在するデータを分かりやすく示しながら負担増とならない方法を今後検討していきたい。

3 生徒指導・教育相談・特別支援について

- ・問題行動はほとんどなく、多くの生徒がトラブルもなく学校生活を送っている。しかし、不登校は増加しており生徒指導体制の強化に更に取り組む必要がある。
- ・「15養護教諭やスクールカウンセラーとの連携」を除き「12生徒の問題行動への組織的な対応」「13いじめへの対応」「17不登校への対応」「18特別支援への対応」の4項目が前回評価を下回った。不登校や特別の支援が必要な生徒の対応については、昨年度を上回るペースでケース会議や個別の事例を踏まえた支援会議を開催している。特に学校に来れない生徒は増加の一方で教職員の取り組みも多忙化しているのが現状である。一部の教師の負担とならぬよう、教頭・生徒指導のリーダーシップのもと教職員間の連携・協力体制の強化が必須と考える。

- ・「13 いじめの早期発見、早期対応」については、「こうさい子調査」でいじめを報告する生徒がおり現在も対応中である。今後も改正した「学校におけるいじめ防止基本方針」を全教職員で確認し、生徒指導部会を中心に組織的な対応に努めていきたい。

4 特別活動について

- ・「21合唱活動」は、昨年以上に高い評価を示している。合唱を披露する機会も確保されており、段階的に質的な高まりを実感できる実践が行われている。市川高校を招いた取り組みも生徒に好評であり、職員の意識と指導のスキルも向上している。

- ・学校行事や生徒会活動については、前年度の流れを引き継ぎ、今年度も担当教職員の指導の下、生徒の成長につながる実践が行われている。「22あいさつ運動」については評価値は昨年と変わらないものの、全体と比較して低い。大きな声であいさつできる雰囲気醸成に取り組む必要がある。

- ・部活動については、中巨摩や県の大会で好成績を残し、生徒、保護者、教職員とも例年と同じように評価をしている。部活動は、結果だけでなく、異学年の集団における協調性を育む場として、中学校生活の中でも重要な活動になっている。しかし一方では、生徒の学習時間の確保や教師の時間外勤務の問題など課題を抱えている面もあるので、今後も「甲西中学校部活動の方針」にのっとり、メリハリを持った活動をしていく必要がある。

- ・「23 今日の健康課題」については、講演会による指導の他、保健委員会や給食委員会が食育と熱中症予防啓発運動に取り組む等して向上した。

5 保護者・地域との連携について

- ・学校通信、学年通信、学級通信などを定期的に発行したり、学校開放日を設け情報公開に努めている。また、メールを活用し、更なる情報発信を確実に行った。ホームページの活用を増やして行きたい。
- ・「25 26 保護者との連携」については、親子奉仕作業、ラジオ体操祭りの活動を行うにとどまり評価は低い。来年度に向け応援団の組織を活用しさらに深めていかなばならない。

- ・「24 関係諸機関との連携」については、スクールサポーターや警察など生徒指導面や市の福祉総合相談課など特別支援関係の面で連携が取られた。日頃の授業などの支援については、学校応援団の募集を行い、花の定植作業や調理実習の補佐、合唱指導等に協力してくれる人材が立候補してくれている。現在組織を編成している最中である。

- ・苦情を含め、保護者が学校に連絡をしてくることは、保護者のと連携を深めるチャンスとしてとらえ、今後も保護者の声を聴く姿勢を大切にしながら、その対応に努めていきたい。

6 26項目以外について

- ・若い先生の増加に伴い、授業、行事、部活動の取り組み意義への理解、スキルの向上と伝達のため校内研究及び研究授業、OJTの推進を職場全体をあげて取り組む必要がある。

- ・落ち着いた環境で教育活動が実践できている。教育の質を維持、向上させるために、系統的な取り組みと特色ある取り組みを実施し、一人ひとりの生徒の個性を伸ばしていきたい。全教職員が職務に自信と責任をもって取り組むことが大切である。

- ・保護者や地域に甲西中の良さをもっと実感してもらうためにも、授業の公開、合唱や学園祭、マラソン大会、講演会、学校応援団等の機会を使い学校と保護者・地域が手を結び連携・協働していくことが大切である。更に自立的な学習や体験学習を増やし、深い学びの実現すること。子どもたちの目を社会や世界に開き将来の社会や地域を支える人材を育成していくことがこれからの甲西中の使命となる。

メモ